

福島 博先生を追悼する



日本の珪藻学を牽引してきた福島 博先生が、2022年8月30日に逝去された。福島先生は1924（大正13）年2月2日に、奈良県にお生れになられた。享年98歳であった。お元気に晩年を過ごされていて、どこも悪いところはなく老衰であった。

地主の長男として育ち、教育熱心な父親の勧めで、昭和19年4月、東京文理科大学（名称変更、東京教育大学、現筑波大学）に入学し、昭和27年9月に大学院博士課程満期終了した。弟君は東北大学を卒業され工学部助教授から、広島大学工学部教授になられた。研究者兄弟であった。

大学時代の指導教官は菌類学が専門であったが、珪藻学を兄弟子の故小林 弘先生（東京学芸大学教授）と共に学んだ。晩年は腰痛に悩まされたが、「大学院時代、冬に暖房もない寒い部屋で過ごしたのが原因だ」と言われたことを記憶している。

昭和28年4月に、横浜市立大学文理学部助教授として赴任した。その頃、福島先生は多くの山岳湖沼の藻類分布調査を行っていたが、夏に残る雪渓に赤い雪と緑に染まる雪渓藻があることに気づき調査して、1952年に「日本に於ける赤雪と緑雪に就て」を報告した（業績参照）。この報告が縁で、1958～59年、「宗谷」の時代の第3次南極地域観測隊の生物担当夏隊員になった。帰国した1959年6月に、宮中華蔭亭で昭和天皇に、南極地域の生物について「御進講」をされた。

この頃、各大学で探検的学術調査が行われた。1959年には、横浜市立大学に探查会が設立され、山岳部（OBを含む）と合同で、知床半島・未踏夏季縦走調査隊が結成されて、先生は隊長となり知床半島湖沼の調査を行った。この時に筆者は1年生で参加し、福島先生と行動を共にし、「標本を見ないか!」と、誘われて珪藻学に関わることになった。

福島先生は、続いて第5次夏隊員になり、昭和基地周辺の露岩地帯の湖沼の珪藻分布を論文にまとめた。1963～72年まで日本学術会議南極特別委員会の委員にな

り、南極地域観測隊の運営に関わり、昭和基地内の生物観測室や「しらせ」の船内の生物観測室の設計などをされた。1962～63年南極条約オブザーバーとして米国マクマード基地を視察した。1967年南極地域観測が再開された第7次観測隊で、夏隊員として、「しらせ」の処女航海で、再度昭和基地での生物調査を行った。1952年からの雪渓に生育する藻類を、氷雪藻としてまとめられて、1963年に「Studies on Cryophytes in Japan」の研究論文により、東京教育大学より博士号を取得された。

1966年4月に文理学部教授になった。横浜市立大学に赴任されてから、日本の珪藻に関する報告から、種、属ごとの生育地をまとめる研究をされて、「日本新産淡水藻類—Les algues d'eau douce observées pour la première fois au Japon」を横浜市立大学紀要（学術論文）に掲載していった。この研究を進めた後に、珪藻組成から河川の環境を判断する手法、生物学的水質判定（1968）に関する報告が多くなった。

1971年の「阿賀野川の水銀事件裁判の被告側証人としての調査結果の報告」が、後年、学生や教職員のなかで問題になり、先生の研究姿勢などが問われて、1978年に横浜市立大学を退職した。

筆者は、この騒動は、某教授の学生や教職員を巻き込んだ福島先生排斥陰謀と、今でも思っている。

幸い、翌年1969年4月に、東京女子体育大学教授に赴任した。先生は、引き続河川の生育環境と珪藻組成の調査研究を続けられ、一般教育の生物学を教え、教壇に立たれた。福島先生は、おおらかに研究教育指導をされて、指導を受けた学生達は、多くの研究教育機関や上水道・下水道の研究職に就いている。この分野の学生や院生の指導を絶たれた先生の御気持ちを思うと無念な気持ちになる。

東京女子体育大学におられた先生にお会いした時、「静かな学内で授業も楽しい。大学に近いところで、一人住まいも、いいもんだよ」と、微笑まれた。

この頃より、学会活動に多く関わり、1979年より日本水処理生物学会の事務局を引き受けられ、1979年に副会長に就任され、1996年まで事務局活動をされた。



東京女子体育大学の教え子らによる傘寿のお祝いの会、福島先生と小林先生を囲んで

1992年3月に東京体育大学を定年退職された。この頃から日本珪藻学会の小林 弘会長に協力し、1996年に日本珪藻学会の会長になり事務局を担当した。

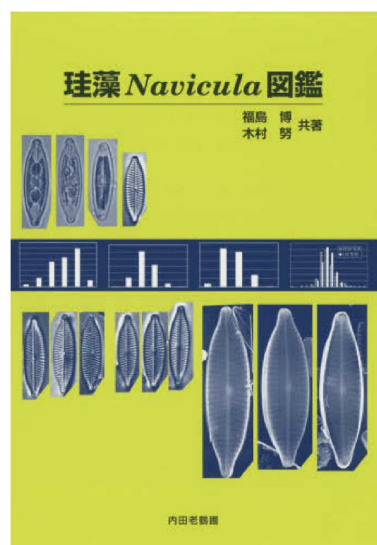
福島先生は、1990年代より、南極観光講師を6回担当し、チリから出航し、南極半島地域の陸地で藻類調査をした。北極観光講師も4回行い、サハリン海域の沿岸の藻類調査をされた。

2015年(90歳)頃から腰痛があり、国内でも調査活動が難しく、手元にある標本試料を顕微鏡で見る毎日であった。

晩年の数年間は、教え子の木村 努氏と *Navicula* 属に関する図鑑(内田老鶴圃刊行)の作成に専念された。この図鑑は木村氏にとって執念の図鑑でもあった。2018年、木村氏も闘病中でありながら、二人で東京の内田老鶴圃の内田 学社長に打ち合わせに出掛けた。内田さんは、売れるかと刊行を迷われたそうであるが、お二人が会社に来られて刊行を決断された。

福島先生が採取された標本は、報告された論文の別刷と共に、国立科学博物館に保存されている。福島先生の蔵書のなかで全ての洋書は、国立科学博物館に寄贈された。

福島先生は、晩年のお手紙では、「福島 博」とサインされていた。このこと理由を尋ねた時に、「戸籍上



は福島であるので、私的な文には福島とサインをしている」と言われた。

波乱万丈の人生を送られた福島 博先生のご冥福を、心よりお祈り申し上げます。

高知大学名誉教授 大野正夫

小林艶子先生の思い出



小林艶子先生は、横浜市立大学理学部において福島博先生と共に珪藻学の研究をされ、教育面でも多大な貢献をされました。平成30年（2018年）11月19日に逝去されました。

「あなたねえ、…なさいよ！」

艶子先生のあのお声が心に響いています。「…」のところは、「詰めをもう少ししっかりし」であったり、「今のテーマの研究、がんばってつづけ」であったり、お叱りと励ましの言葉に母のような優しさと厳しさを感じています。

艶子先生に初めてお会いしたのは、奈良で開催された「日本珪藻研究者の会」第1回大会（1980年1月20日）のこと。先生のお名前が私の母と同じであったことから、お会いした当初から親しくお話をさせていただくことができました。それ以来、珪藻学会大会・研究集会でお会いするたびに、冒頭のような声掛けをしていただき、そのたびにずいぶんと励まされたものです。

故根来健一郎先生の下で珪藻の研究を始めたころ（1970年代なかば）、艶子先生に出会いました、といっても文献上でのこと。根来先生からお借りした多数の別刷りのなかに一篇の論文がありました。「小林艶子. 1957, 塩原温泉のケイ藻. 植物学雑誌 70 : 232-237」です。那須塩原市（栃木県）の箒川の清流に沿った塩原温泉郷の珪藻を対象とした、福島博先生（横浜市立大学助教授）の指導の下で行われた研究です。最初に、8つの分類群の丁寧な細部まで描かれたスケッチが目にとまりました。それぞれの温泉がどのような水質を有し、そこにどのような珪藻群落が認められたか、また、日本新産種（6分類群）および日本の温泉新産種（11分類群）についてもまとめられています。そして論文の後半には主要な8つの分類群の分布・生態についての情報が記述され、出現した全55分類群のリストが最後に記されています。この論文から、珪藻研究におけるひとつのスタイルを学びました。論文中で直接述べられているわけではありませんが、種同定の困難さと種同定ができたときの喜び、研究の愉しみが窺えます。当時、私自身が目指し

た汽水域の珪藻研究にも通じるところです。

珪藻を顕微鏡下で観察して誰もが感じることで、それは、蓋殻にかかわる諸珪質が示す変異の多様さではないでしょうか。種同定の正確さを追求すればするほど、ある個体群が示す変異についての理解が必要になります。艶子先生は、その点に徹底的にこだわりました。そのことがよく表れているのが1963年の2篇の論文です。ひとつが、*Surirella ovata* Kütz. var. *pinnata* (W.Sm.) Brun (= *Surirella minuta* Bréb. ex Kütz.) についての論文 (Ko-Bayashi, T., 1963, Bot. Mag. Tokyo 76 : 203-205) であり、他のひとつが、無機強酸性水域におびただしく産し、しばしば純群落を形成する *Pinnularia braunii* (Grunow) Cleve sensu Ko-Bayashi 1963 (= *Pinnularia acidojaponica* M. Idei & H. Kobayasi) の変異を扱った論文 (Ko-Bayashi, T., 1963, Bot. Mag. Tokyo 76 : 455-468) です。*Surirella* 論文では、大湯川（秋田県）の試料から308個の蓋殻を写真撮影し、とくに殻型の変異に着目して「基本型は両側縁が平行な型と考えられ、この型から中央部がやや湾入した型や、頭極より足極が急に細くなる型や、両側縁が湾出する型ができたと考える。」とし、その変化の様子を顕微鏡写真とともに説明しています。また、*Pinnularia* 論文では、酢川（山形県）においてpHがそれぞれ異なる3地点（pH=1.4, 1.8, 2.1）で採集した試料から、180個の蓋殻をアトランダムに写真撮影し、蓋殻の諸形質の変異を調べるとともに、3地点からそれぞれ約300個体を測定し、蓋殻のサイズや殻型と生育環境（pH）との関連について研究しました。その結果、蓋殻の殻型の変化について、84個の蓋殻写真を殻長が長くなる順で配置することで示したうえで、*P. braunii* var. *amphicephala* (Mayer) Hust., var. *amphicephala* forma *nipponica* Skvortzow とされてきたものは、いずれも *P. braunii* var. *braunii* のシノニムにすべきと結論しました。また、蓋殻のサイズや殻型と生育環境（pH）との関連については、両者間に一定の関係が認められないことを明らかにしました。

これら二つの研究に共通するのは、珪藻という自然に真摯に向き合う姿勢、深い探究心だと思います。私の脳裏には、この、とくに84個の *Pinnularia* の蓋殻写真が焼きついています。

「あなたねえ、一つの分類群の本質を知るためには、こんな風に徹底的に調べ尽くしなさいよ！」

艶子先生のあの優しくもあり厳しくもあるお声が、聞こえてきます。しかし、今となっては、もはやあのお姿を拝見することも、お声をお聞きすることも叶いません。艶子先生のご冥福を心よりお祈りするとともに、珪藻研究の道を示してくださったことに対する感謝の気持ちをお届けします。

福島 博・小林艶子両先生の標本資料および図書と業績について

私が国立科学博物館に勤めはじめて間もない頃、珪藻学会でお会いした福島 博先生に標本を当館に寄贈して頂けないかとお話ししたことがある。福島先生は、残された時間を一本でも多くの論文を書くことに使いたく、標本整理の時間がもったいないので自分が死んだ後はそれらを破棄したいと話された。当時でも70代後半であった先生に対するもの凄い気迫・執念を感じたのを覚えている。この様な気迫・執念は、戦争を経験された同世代の研究者独特の雰囲気とでもいうのだろうか？思い出すだけで、身の引き締まる思いがする。その時に隣におられた小林艶子先生が「収集にお金もかかっているのに、そんな無駄なことを言っはけません」と柔らかく諭された事もあり、標本整理は出来るだけ国立科学博物館側で行うことを条件に標本の寄贈を引き受けることになった。2009年頃の話である。その後、複数回にわたって標本・資料を、さらには蔵書類についても大野正夫氏の協力も得て、国立科学博物館植物研究部で引き受けることになった。

両先生は研究パートナーとしてほとんどの研究を一緒にされており、小林先生のご自宅に藻類研究所を開設されていた。そのため、標本や蔵書に関しては福島先生のものが多いが、小林先生のものも一部含まれている。最終的に引き受けしたときには、小林艶子先生が高齢者施設に入られていたため、ご家族の了解を頂き両先生の標本・図書等を合わせて寄贈頂いた。両先生のものごとの区別が明確についていないこともあり、小林先生には申し訳ない部分もあるが「福島 博コレクション」として一括管理している。

1970年代の社会状況の中で福島先生の研究そのものが否定され、渡辺仁治先生の珪藻指標研究もその後大きな批判を浴びた。この事が、特に藻類研究において、基礎研究である分類学と指標生物や水処理などといった応用研究の間に大きな溝を作った。当時の日本は珪藻を用いた指標性の研究で世界の最先端を走っていたが、現在の日本では珪藻指標を研究対象とする人でさえ絶滅寸前である。また、応用の人たちが使う学名が、分類研究者の使う学名と乖離をしたのも、この事が原因の一つであると感じている。戦争と学生運動を経験された先達が鬼籍に入られたあと、現在を生きる私たちが乗り越えるべき課題として残っている。

最後に、福島先生の研究がデータ主義であったことを指摘しておきたい。元データを論文等で完全に公開していたことで、再解析によって批判を受けることになった。その後の研究でも多くの標本を用いて丁寧な形態比較と計数によって地域のフロラを報告されてきた。その様な元データを大切にす姿勢の重要性は現代でも失われていないはずである。

標本類

標本類は3回にわたってお引き受けした。受託された全国各地の水域の試料などでラベルが不完全なものも

多く、整理は難航している。南極をはじめとした極地調査の標本や全世界からの標本が含まれている。2022年11月末現在までに液浸標本30,891点、スライド標本5,259点について、標本整理がすすんでいる。整理がすすんだ標本については当館の標本・資料統合データベース(<http://db.kahaku.go.jp/webmuseum/>)の「微細藻類」の中で順次公開予定である。実際には研究ノートなどから探せることもあるので興味のある方は問い合わせを頂きたい。福島先生の所有標本には、兄弟子の藤沢六馬氏の標本が含まれている。福島先生によると藤沢さんから当時貴重であったガラス標本瓶を使うようにと標本が入った瓶を分けて頂いたそうである。半分程度は中身を捨てて自分の標本瓶に使われたそうだが、幸いにも残った標本には戦中に開拓され消失した京都の「巨椋池」や北方領土の標本等、戦前の多くの標本が含まれ、日本で最も古いコレクションである。

蔵書

国立科学博物館植物研究部では、本年亡くなられた山岸高旺先生や平野實先生などの藻類研究者の蔵書を幅広く引き受けてきた。福島 博・小林艶子両先生の蔵書についても個人文庫を作らずに一般図書と合わせて収蔵している。福島 博先生は文献に対する思い入れが人一倍強く、1955年に出版された「日本淡水藻類目録」は、初期の淡水藻類研究者にとってバイブルだったと私の前任の渡邊眞之氏から聞いている。残念ながら当館も収蔵スペースの制限により、既存収蔵書籍との重複を引き受けることは困難で（貴重なものは最大3冊）、引き受けできたものは全体の4分の1にも満たなかったと思う。正式に受け入れ登録したものは706件であるが、報告書などについては未登録資料として私の研究室に受け入れている。登録図書の中には1817年に出版された von D. Christian-Ludwig Nitzsch の本や探検航海時代の各種報告書など日本では公的図書館に登録されていなかった貴重書が多数含まれている。それらについては、国立科学博物館図書室のウェブページ (<https://lib.kahaku.go.jp/drupal/>) から検索できる。

業績一覧

福島先生の業績一覧についてはご本人によってまとめられたものが存在しなかったため、私の方で後藤敏一・大塚泰介両氏をはじめ多くの方々のご協力を得て新たに作成した。神奈川県発行の「藻類植生と水質汚濁」シリーズなどの行政資料にも多数の記事を記しているが、それらの多くは割愛した。同様に、各地のアセスメントやモニタリング報告書の多くも割愛した。小林艶子先生については、在職中の業績一覧をご本人が作成されていたため、それに追加修正した。両名の共著の業績が多いため紙面の関係上、両名のものを合わせて公表する。行政資料や報告書類の多くについては、その性質上当館の図書室に正式に登録せず、研究室資料として扱っている。必

要があれば辻までお問い合わせ頂きたい。

- 福島 博. 1944. 茨城県湯沢鉱泉の藻類. 医学と生物学 **5**: 736-739.
- 福島 博. 1944. 白河ラジウム鉱泉の珪藻. 医学と生物学 **6**: 235-238.
- 福島 博. 1944. 那須湯本温泉の珪藻. 医学と生物学 **6**: 310-312.
- 福島 博. 1944. 那須辨天温泉の珪藻類. 医学と生物学 **6**: 379-381.
- 福島 博. 1948. 埼玉県川越市水田の藻類. 医学と生物学 **13**: 365-366.
- 福島 博. 1948. 埼玉県北山鉱泉の珪藻類. 医学と生物学 **13**: 432-434.
- 福島 博. 1948. 本邦産陸水藻類図説 1. 接合藻 *Micrasterias* 属. 採集と飼育 **10**: 360-362.
- 福島 博. 1948. 群馬県八塩鉱泉の珪藻植生 (予報). 科学 **18**: 129-130.
- 福島 博. 1949. 袋田温泉の生物 第1報. 医学と生物学 **14**: 67-69.
- 福島 博. 1949. 袋田温泉の生物 第2報. 医学と生物学 **14**: 375-377.
- 福島 博. 1949. 大阪府錦溪鉱泉の珪藻類. 医学と生物学 **15**: 91-93.
- 福島 博. 1949. 千葉県行徳町及び船橋市汽水域及び塩田の藻類植生. 医学と生物学 **15**: 233-235.
- 福島 博. 1949. 防火用水中の藻類. 医学と生物学 **15**: 293-295.
- 福島 博. 1949. 本邦産陸水藻類図説 2. 接合藻類 *Cosmarium* 属. 採集と飼育 **11**: 19-21.
- 福島 博. 1949. 本邦産陸水藻類図説 3. 珪藻 *Gomphonema* 属. 採集と飼育 **11**: 105-107.
- 福島 博. 1949. 本邦産陸水藻類図説 4. 珪藻 *Navicula* 属. 採集と飼育 **11**: 172-174.
- 福島 博. 1949. 本邦産陸水藻類図説 5. 珪藻 *Pinnularia* 属. 採集と飼育 **11**: 214-216.
- 福島 博. 1949. 本邦産陸水藻類図説 6. 珪藻 *Cymbella* 属. 採集と飼育 **11**: 245-247.
- 福島 博. 1949. 本邦産陸水藻類図説 7. 珪藻 *Nitzschia* 属. 採集と飼育 **11**: 282-284.
- 福島 博. 1949. 本邦産陸水藻類図説 8. 鞭毛藻 *Tracheromonas* 属. 採集と飼育 **10**: 306-309.
- 福島 博. 1949. 本邦産陸水藻類図説 9. 藍藻 *Oscillatoria* 属. 採集と飼育 **10**: 330-332.
- 福島 博. 1949. 本邦産陸水藻類図説 10. 珪藻 *Surirella* 属. 採集と飼育 **11**: 375-377.
- 福島 博. 1950. 後樂園で得た珪藻. 医学と生物学 **16**: 105-107.
- 福島 博. 1950. 埼玉県新川岸川々跡池沼の藻類 第1報. 医学と生物学 **16**: 337-339.
- 福島 博. 1950. 埼玉県新川岸川々跡池沼の藻類 第2報. 医学と生物学 **17**: 176-173.
- 福島 博. 1950. 大阪府錦水鉱泉の珪藻. 医学と生物学 **17**: 265-267.
- 福島 博. 1950. 四萬温泉の藻類植生. 植物研究雑誌 **25**: 173-178.
- 福島 博. 1950. 本邦産陸水藻類図説 11. 珪藻 *Eunotia* 属, *Actinella* 属. 採集と飼育 **12**: 25-27.
- 福島 博. 1950. 本邦産陸水藻類図説 12. 接合藻 *Closterium* 属. 採集と飼育 **12**: 55-58.
- 福島 博. 1950. 本邦産陸水藻類図説 13. 緑藻 *Scenedesmus* 属.

- 採集と飼育 **12**: 86-88.
- 福島 博. 1950. 本邦産陸水藻類図説 14. 緑藻 *Pediastrum* 属. 採集と飼育 **12**: 118-123.
- 福島 博. 1950. 本邦産陸水藻類図説 15. 珪藻 *Synedra* 属. 採集と飼育 **12**: 161-163.
- 福島 博. 1950. 本邦産陸水藻類図説 16. 珪藻 *Nitzschia* 属 (2). 採集と飼育 **12**: 192-194.
- 福島 博. 1950. 本邦産陸水藻類図説 17. 珪藻 *Nitzschia* 属 (3). 採集と飼育 **12**: 208-211.
- 福島 博. 1950. 本邦産陸水藻類図説 18. 珪藻 *Neidium* 属. 採集と飼育 **12**: 297-298.
- 福島 博. 1950. 本邦産陸水藻類図説 19. 珪藻 *Epithemia* 属, *Rhopalodia* 属. 採集と飼育 **12**: 333-334.
- 福島 博. 1950. 本邦産陸水藻類図説 20. 接合藻 *Euastrum* 属. 採集と飼育 **12**: 356-359.
- 福島 博. 1950. 本邦産陸水藻類図説 21. 珪藻 *Pinnularia* 属 (2). 採集と飼育 **12**: 396-398.
- Fukushima, H. 1951. Les algues d'eau douce observées pour la première fois au Japon (1). The Journal of Japanese Botany **26**: 135-139.
- Fukushima, H. 1951. Les algues d'eau douce observées pour la première fois au Japon (2). The Journal of Japanese Botany **26**: 247-250.
- Fukushima, H. 1951. Les algues d'eau douce observées pour la première fois au Japon (3). The Journal of Japanese Botany **26**: 365-370.
- 福島 博. 1952. 尾瀬産藍藻類. 植物研究雑誌 **27**: 9-15.
- 福島 博・石井昭治・古谷長彦・森本義信. 1951. 群馬県下利根川水系の藻類植生. 生態学会報 **1**: 83-87.
- 小林義雄・福島 博. 1952. 日本に於ける赤雪と緑雪に就て I. 植物学雑誌 **65**: 77-85.
- 小林義雄・福島 博. 1952. 日本に於ける赤雪と緑雪に就て II. 植物学雑誌 **65**: 128-136.
- 小林義雄・福島 博. 1952. 日本に於ける赤雪と緑雪に就て III. NAGAOA (2): 67-75.
- 福島 博. 1953. 日本産冰雪藻類の研究 1. *Oocystis lacustris forma nivalis* に就いて. NAGAOA (3): 36-40.
- Fukushima, H. 1953. Les algues d'eau douce observées pour la première fois au Japon (4). The Journal of Japanese Botany **28**: 21-25.
- Fukushima, H. 1954. Trachelomonas in Japan. The Journal of the Yokohama Municipal University, Ser. C-7, No. 28: 1-12, 2 pls.
- Fukushima, H. 1954. Studies on the Cryoalgae of Japan 2. Cryoxenous algae from Japan. NAGAOA (4): 31-35.
- Fukushima, H. 1954. Diatoms flora of Oze. Scientific Researches of the Ozegahara Moor. pp. 602-621. Oze Scientific Research Group, Maebashi.
- Fukushima, H. 1954. Further Notes on Cyanophyceae of Oze. Scientific Researches of the Ozegahara Moor. pp. 622-624. Oze Scientific Research Group, Maebashi.
- Fukushima, H. & Fujisawa, K. 1954. Desmids flora of Oze. Scientific Researches of the Ozegahara Moor. pp. 590-601. Oze Scientific Research Group, Maebashi.
- 福島 博. 1955. 埼玉県渡瀬鉱泉の藻類. 陸水学雑誌 **17**: 10-11.
- 福島 博. 1955. 群馬県八塩鉱泉及びその附近溪流の藻類植生. 陸水学雑誌 **17**: 12-17.
- 福島 博. 1955. 秩父地方の冰雪植物. 秩父自然科学博物館研究報告 **6**: 45-46.

- 福島 博. 1955. 日本淡水藻目録, 海産藍藻及び化石珪藻を含む
1. 横浜市立大学紀要, Ser. C-11, No. 42: 1-26.
- 福島 博. 1956. 日本淡水藻目録, 海産藍藻及び化石珪藻を含む
2. 横浜市立大学紀要, Ser. C-13, No. 46: 1-12.
- 福島 博. 1956. 日本淡水藻目録, 海産藍藻及び化石珪藻を含む
3. 横浜市立大学紀要, Ser. C-15, No. 51: 1-34.
- 福島 博. 1957. 日本淡水藻目録, 海産藍藻及び化石珪藻を含む
4. 横浜市立大学紀要, Ser. C-18, No. 71: 1-24.
- 福島 博. 1957. 日本淡水藻目録, 海産藍藻及び化石珪藻を含む
5. 横浜市立大学紀要, Ser. C-20, No. 82: 1-54.
- 福島 博. 1957. ミヅヲ (*Hydrurus foetidus*) について. 横浜大学論叢自然科学系列 8: 1-12.
- 小林艶子. 1957. 伊豆片瀬, 谷津, 湯ヶ島温泉のケイ藻. 植物学雑誌 70: 69-74.
- 小林艶子. 1957. 塩原温泉のケイ藻. 植物学雑誌 70: 232-237.
- 福島 博. 1958. 日本淡水藻目録, 海産藍藻及び化石珪藻を含む
6. 横浜市立大学紀要, Ser. C-27, No. 98: 1-20.
- 福島 博. 1959. オングル島の淡水藻類 (予報). 横浜大学論叢自然科学系列 10: 1-12.
- 福島 博. 1959. 東京教育大学内占春池のケイ藻類. 横浜市立大学論叢自然科学系列 11: 30-34.
- 福島 博. 1959. 日光兎島高層湿原の藻類. 横浜市立大学論叢自然科学系列 11: 67-75.
- 福島 博. 1959. オングル島の生物概報 特に淡水藻類について. 横浜市立大学紀要, Ser. C-31, No. 112: 1-10, pl. 1-10.
- 大川真澄・小倉 謙・福島 博・岩浪洋造・福井玉夫・津村孝平.
1960. 写真による生物学 [IV]. 横浜市立大学論叢 11: 1-25.
- 福島 博. 1960. オングル島近傍の生物社会. 横浜市立大学論叢自然科学系列 12: 29-37.
- 福島 博. 1960. 東京国分寺附近の淡水藻類. 横浜市立大学論叢自然科学系列 12: 38-41.
- 福島 博. 1960. 知床半島縦走記. In: 宮本常一 (編) 僻地の旅. pp. 253-276. 修道社, 東京.
- 福島 博. 1961. 三宅島湖沼の研究 三宅島大路池, 新漣の湖沼調査について. 横浜市立大学論叢自然科学系列 13: 7-11.
- 福島 博. 1961. 三宅島大路池の沿岸藻類群落 (三宅島湖沼の研究 III). 横浜市立大学論叢 13: 13-32.
- 福島 博. 1961. 三宅島大路池と新漣の湖底藻類群落 (三宅島湖沼の研究 V). 横浜市立大学論叢 13: 33-41.
- 福島 博. 1961. 三宅島大路池と新漣の藻類の微化石分析 (三宅島湖沼の研究 VI). 横浜市立大学論叢自然科学系列 13: 43-57.
- 福島 博. 1961. 東オングル島の陸氷と淡水藻の植生. 南極資料 11: 869-871.
- 福島 博. 1961. 南極の氷雪藻類. 南極資料 11: 884.
- 渡辺 篤・福島 博・藤田善彦・清原千里・石川雅子. 1961. オングル島付近から分離した微細藻類. 南極資料 11: 874-875.
- Fukushima H. 1962. The brief notes on the diatoms vegetation at the Prince Olav Coast, Antarctica. The Bulletin of the Marine Biological Station of Asamushi, Tohoku University 10: 237-240.
- 福島 博. 1962. ミズオの生活史 (予報). 植物分類地理 20: 290-295.
- 福島 博. 1962. 東京及びその附近の淡水藻とプランクトン相雑報. 横浜市立大学論叢 13: 27-35.
- 福島 博. 1962. 南極プリンスオラフ海岸新南岩露岩地帯のケイ藻. 南極資料 14: 1200-1211.
- 福島 博. 1962. 南極大陸カスミ岩露岩地帯のケイ藻植生. 南極資料 15: 1267-1280.
- 福島 博. 1962. 日本の南極地域観測隊生物学部門はどのような観測をしてきたか. 横浜市立大学論叢 14: 73-91.
- 小林艶子. 1962. 羽状ケイ藻 *Navicula muticopsis* van Heurck の変異. 南極資料 14: 1212-1216.
- 小林艶子. 1962. ケイ藻 *Cymbella leptoceros* (Ehr.) Grun. の変異. 南極資料 16: 1425-1429.
- Fukushima, H. 1963. Algal vegetation of some hot springs in Ishikawa Prefecture, Japan. 陸水学会誌 24: 34-37.
- Fukushima, H. 1963. Studies on Cryophytes in Japan. The journal of the Yokohama Municipal University, Ser. C-43, No. 144: 1-146.
- 福島 博. 1963. マクマード付近の生物小観察 1. 横浜市立大学論叢自然科学 14: 19-33.
- 福島 博. 1963. 南極大陸ビボーグオーセネとオングルカルペン島のケイ藻. 南極資料 17: 1486-1488.
- Ichimura, S. & Fukushima, H. 1963. On the chlorophyll content in the surface water of the Indian and the Antarctic Oceans. The Botanical Magazine, Tokyo 76: 395-399.
- Ko-Bayashi, T. 1963. Variation of *Surirella ovata* var. *pinnata*. The Botanical Magazine, Tokyo 76: 203-205.
- Ko-Bayashi, T. 1963. Variations in *Pinnularia braunii*. The Botanical Magazine, Tokyo 76: 455-458.
- Ko-Bayashi, T. 1963. Variations on some pennate diatoms from Antarctica, 1. JARE Scientific Reports Biology 18: 1-20.
- 小林艶子. 1963. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grun. var. *recta* O. Müll. の変異. 南極資料 17: 1489-1493.
- 小林艶子. 1963. 南極産羽状ケイ藻 *Navicula muticopsis* van Heurck var. *muticopsis* f. *murrayi* (W. & G.S. West) Ko-Bayashi の変異. 南極資料 17: 1494-1498.
- 福島 博. 1964. ロス島ロイド岬 (南極) 露岩帯のケイ藻植生. 南極資料 22: 1815-1827.
- 福島 博・可合武臣・木村 努・宮崎捷二. 1964. 木曾川・長良川・揖斐川下流部の流下ケイ藻 (1). 横浜市立大学論叢自然科学 15: 1-47.
- 福島 博・小林千江子. 1964. 磐梯五色沼群のケイ藻類. 横浜市立大学論叢自然科学 16: 55-75.
- 福島 博. 1965. 微細藻類同定法. In: 田宮 博・渡辺 篤 (編) 藻類実験法. pp. 105-132. 南江堂, 東京.
- 福島 博. 1965. 微細藻類植生による鉱害調査法. In: 田宮 博・渡辺 篤 (編) 藻類実験法. pp. 393-395. 南江堂, 東京.
- 福島 博. 1965. アラスカ, ポイントバローの着色海氷から得たケイ藻類 (予報). 南極資料 24: 1927-1931.
- 福島 博. 1965. 藻類談話会の発足. 淡水藻類: 日本淡水藻類研究談話会報 1: 3.
- 福島 博. 1965. 南ジョージア産ケイ藻類 (予報). 南極資料 24: 1914-1926.
- 福島 博. 1965. 南極マクマードのバンド博士. 淡水藻類: 日本淡水藻類研究談話会報 1: 3.
- 福島 博・小林千江子. 1965. 横浜市泥亀新田のケイソウ類. 横浜市立大学論叢自然科学 16: 61-77.
- 福島 博・小林艶子. 1965. 岐阜市忠節橋付近, 長良川のアユの食性. 木曾三川河口資源調査報告 2: 503-517.
- 福島 博・小林艶子. 1965. 長良川, 河口附近船頭平でえたそアユの食性. 木曾三川河口資源調査報告 2: 497-501.
- 福島 博・小林艶子. 1965. 揖斐川, 長良川, 木曾川からえたケイ藻. 木曾三川河口資源調査報告 2: 519-529.
- 福島 博・杉山純多. 1965. 南極の微小生物 1. 遺伝 19: 37-41.
- Ko-Bayashi, T. 1965. Variations on some pennate diatoms from

- Antarctica, 2. JARE Scientific Reports Biology 24: 1-28.
- 小林艶子. 1965. 羽状ケイ藻 *Navicula gibbula* var. *peraustralis* の変異. 南極資料 24: 36-40.
- 小林艶子. 1965. 岡山県高梁川, 高梁ダム下でえた上りアユの食性 (予報). 木曾三川河口資源調査報告 2: 531-532.
- 福島 博. 1966. マラジョーナヤ基地とミルニー基地で得たケイ藻. 南極資料 27: 2121-2125.
- 福島 博. 1966. 南極の陸水ケイ藻フロラ (予報). 横浜市立大学論叢 自然科学 17: 66-75.
- 福島 博, 目黒 熙. 1966. 南極のプランクトン氷 (予報). 横浜市立大学論叢, 自然科学 17: 52-65.
- 福島 博・目黒 熙. 1966. 南氷洋の1次生産の基本的構造としてのプランクトン氷. 南極資料 27: 2207-2209.
- 福島 博・鈴木邦子. 1966. 南極エンダービー陸地沖で得た柱状採泥の微化石分析. 南極資料 26: 2056-2063.
- 井手嘉雄・福島 博・森田良美. 1966. 渡良瀬川の陸水学的研究—とくに鉱山廃水が河川におよぼす影響について—. 用水と廃水 8: 842-856.
- Meguro, H., Ito, K. & Fukushima, H. 1966. Diatoms and the ecological conditions of their growth in sea ice in the Arctic Ocean. Science 152: 1089-1090.
- 杉山純多・福島 博. 1966. 南極の微小生物 2. 遺伝 20: 71-75.
- 井出嘉雄・福島 博・多賀信夫・森田良美・小島貞夫. 1967. 鉱工業廃水の河川生物に及ぼす影響. 特定研究鉱工業廃水の河川生物におよぼす影響ならびに鉱工業廃水の生物学的処理の研究 結果報告書 昭和41年度. pp. 3-5.
- 福島 博. 1967. 鉱山廃水および有機性廃水が河川の底生藻類に及ぼす影響. 特定研究鉱工業廃水の河川生物におよぼす影響ならびに鉱工業廃水の生物学的処理の研究 結果報告書 昭和41年度. pp. 7-10.
- Fukushima, H. 1967. A brief note on diatom flora of Antarctic inland waters. Japanese Antarctic Research Expedition scientific reports Special issue 1: 253-264.
- 福島 博. 1967. 南極の微生物—プランクトンとペンギン—. モダンメディア 13: 301-313.
- 福島 博. 1967. 揖斐川, 長良川, 木曾川の付着藻類量, 特にアユの食餌量に関連して. 木曾三川河口資源調査報告 4: 105-110.
- Fukushima, H. & Ko-Bayashi, T. 1967. Photomicrographs of diatom 1. The Journal of the Yokohama Municipal University, Ser. C-52, No. 167: 1-33.
- 福島 博・三橋孝子. 1967. 奥伊勢湾の微細プランクトン (1). 木曾三川河口資源調査報告 4: 1695-1771.
- 福島 博・宮崎捷二. 1967. 木曾川の流下藻類. 木曾三川河口資源調査報告 3: 1-29.
- 福島 博・大野正夫・横山宣雄. 1967. 北上川水系のケイ藻相と底棲動物相. The Journal of the Yokohama Municipal University, Ser. C-54, No. 173: 1-49.
- 小林艶子・福島 博. 1967. 長良川, 河口付近船頭平で得たそ上アユの食性 (第3報). 木曾三川河口資源調査報告 4: 85-103.
- 小林艶子・福島 博. 1967. 長良川, 河口付近船頭平でそ上アユの食性 (第2報). 木曾三川河口資源調査報告 3: 189-202.
- 小林艶子・福島 博. 1967. 長良川のアユの消化管よりえた珪藻. 木曾三川河口資源調査報告 3: 203-214.
- Meguro, H, Ito, K. & Fukushima, H. 1967. Ice flora (bottom type): A mechanism of primary production in polar seas and the growth of diatoms in sea ice. Journal of Arctic Institute of North America 20: 114-133.
- 目黒 熙・伊藤邦幸・福島 博. 1967. 北氷洋における底型プランクトン氷: 北氷洋の一次生産の基本構造としての海水中の微細藻類の増殖について—. 南極資料 28: 2257-2271.
- 福島 博. 1968. オングル島のコケの小観察. 南極資料 31: 66-72.
- 福島 博. 1968. ケイソウの分布と種の分化: 藻類における種の分化に関する実験分類学的研究. 文部省科研費研究報告 4-植物: 34-40.
- 福島 博. 1968. 生物学的水質判定. 横浜市立大学論叢 自然科学 20: 33-92.
- 福島 博. 1968. 南極大陸かすみ岩露岩地帯の藻類植生. 南極資料 31: 73-86.
- Fukushima, H. & Kishimoto, C. 1968. Diatoms from Shiretoko Peninsula, northeastern Hokkaido, Japan. Journal of Yokohama City University, Ser. C-58, No. 181: 1-35.
- 福島 博・岸本千恵子. 1968. 三宅島大路池と新滞の植物プランクトン. 淡水藻類: 日本淡水藻類研究談話会会報 4: 3.
- 福島 博・岸本千江子. 1968. 長良川河口部の付着珪藻植生. 木曾三川河口資源調査報告 5: 1205-1227.
- 福島 博・小林艶子. 1968. 諏訪湖でえたケイ藻. 横浜市立大学論叢 自然科学. 20: 45-73.
- 福島 博・小林艶子. 1968. 長野県松川 (無機酸性河川) のケイ藻植生. 横浜市立大学論叢 自然科学 19: 1-8.
- 福島 博・小林艶子・平本俊明・磯村康博・唐沢 栄・右田嵯紀子. 1968. 菅平流水域のケイ藻類. 東京教育大学菅平高原生物実験所研究報告 2: 1-16, pl. 1-3.
- 福島 博・綿貫知彦. 1968. 新潟県赤湯温泉のケイ藻. 淡水藻類: 日本淡水藻類研究談話会会報 4: 1.
- 福島 博・綿貫知彦・小林艶子. 1968. 鎌倉市散在が池でえたケイ藻. 淡水藻類: 日本淡水藻類研究談話会会報 4: 7.
- 小林艶子. 1968. 三宅島大路池と新滞のケイ藻. 横浜市立大学論叢 自然科学 20: 30-44.
- 福島 博. 1969. マクマート基地付近のケイ藻植生. 南極資料 34: 73-78.
- 福島 博・安達六郎・小林艶子. 1969. 諏訪湖の植物プランクトンの重要種属と現在量の季節個推移. 諏訪湖生物群集の生産力に関する研究経過報告 1: 1-4.
- Fukushima, H. & Migita, S. 1969. Preliminary report on epilithic algae of Lake Yunoko, Central Japan. The Bulletin of Yokohama City University Society, Natural Science 20: 1-29.
- 福島 博・小林艶子. 1969. 諏訪湖でえたケイ藻. 横浜市立大学論叢 自然科学 20: 45-73.
- Fukushima, H., Ko-Bayashi, T. & Migita, S. 1969. Diatom flora of Lake Yunoko, central Japan (1). The Journal of the Yokohama City University, Ser. C-60, No. 180: 1-35.
- Fukushima, H., Ko-Bayashi, T. & Migita, S. 1969. Diatom flora of Lake Yunoko, central Japan (2). The Journal of the Yokohama City University, Ser. C-61, No. 185: 1-23.
- Ko-Bayashi, T. 1969. Diatoms from Lake Tairo and Shinmyo, Miyake Island, Japan. The Bulletin of Yokohama City University Society, Natural Science 20: 30-44.
- 小林艶子・福島 博. 1969. 羽状ケイ藻の変異性. 淡水藻類: 日本淡水藻類研究談話会会報 5: 8.
- Fukushima, H. 1970. Notes on the diatom flora of Antarctica inland waters. In: Holdgate, M.W. (ed) Antarctic ecology. pp. 628-631. Academic Press, London.
- 福島 博. 1970. 阿賀野川 (新潟県), 冬期の付着藻類植生 (1). 横浜市立大学紀要, Ser. C-65, No. 194: 1-37.

- 福島 博. 1970. 酒匂川の藻類による水質判定. 酒匂川 **5**: 44-96.
- 福島 博. 1970. 相模川の藻類植生 (予報) 1. 横浜市立大学論叢 自然科学 **21**: 1-57.
- Ko-Bayashi, T. 1970. Variability on some pennate diatoms 1. Journal of the Yokohama City University. Biological Series **1**: 1-48.
- 小林艶子・岸本千江子. 1970. 渡良瀬川からえたケイ藻. 横浜市立大学論叢 自然科学 **21**: 59-73.
- 右田嵯紀子・福島 博・小林艶子. 1970. 日光湯ノ湖の付着藻類相と現在量. 調和型湖沼の生物群集の生産力に関する研究—湯ノ湖生物群集の生産力に関する研究—昭和44年度報告 pp. 17-28.
- 福島 博. 1971. 相模川の藻類植生と水質汚濁. 101 pp. 神奈川県.
- 福島 博. 1971. 阿賀野川 (新潟県), 冬期の付着藻類植生 (2). 横浜市立大学紀要 生物学編 **2**: 1-49.
- 福島 博. 1971. 河川の底生藻の生態 (1). 横浜市立大学論叢 自然科学 **22**: 1-37.
- 福島 博. 1971. 河川の流下藻類について. 横浜市立大学論叢 自然科学 **22**: 34-61.
- 福島 博. 1971. 相模川の藻類植生 (予報) 2. 横浜市立大学論叢 開学20周年記念論文集 pp. 383-416.
- 福島 博・小林艶子. 1971. 酒匂川の藻類植生と水質汚濁 (1970年の状態). 酒匂川 **6**: 21-29.
- 福島 博・小林艶子・北原裕美子. 1971. 名寄川 (北海道) のケイ藻類. 用水と廃水 **13**: 45-55.
- 福島 博・小林艶子・堺 好雄. 1971. 酒匂川のケイ藻類. 酒匂川 **6**: 1-19.
- 小林艶子. 1971. 須川 (山形県) の藻類植生. 横浜市立大学論叢 開学20周年記念論文集, pp. 436-459.
- 小林艶子・福島 博・中村澄夫. 1971. 仁科三湖と北海道大沼のケイ藻植生. 横浜市立大学論叢 自然科学 **22**: 87-126.
- 小林艶子・萩原邦子. 1971. 北極圏アラスカのケイ藻植生 (1). 横浜市立大学論叢 自然科学 **22**: 120-145.
- Ohno, M., Fukushima, H. & Ko-Bayashi, T. 1971. Diatom flora of the Mekong water system, Cambodia. Research Reports of the Kôchi University. Natural Science **20**: 1-11, pl.1-13.
- 福島 博. 1972. 吾妻川 (群馬県) の藻類植生. 用水と廃水 **14**: 51-55.
- 福島 博. 1972. 生物学的水質判定と相模川の水質汚濁. 47 pp., 49 pls. 神奈川県.
- 福島 博. 1972. 泉と河川の藻類. 横浜市立大学論叢 自然科学 **24**: 99-120.
- 福島 博. 1972. 微細プランクトン. 東京湾の生物相調査報告 (予報). pp. 1-5. 神奈川県.
- 福島 博・星 一彰. 1972. 強酸性沼, 銅沼 (磐梯山) の環境と藻類. 用水と廃水 **14**: 97-99.
- 福島 博・唐澤 栄・右田嵯紀子・澤野俊彦. 1972. 横浜沿岸東京湾の水質汚濁と微細プランクトン (予報). 横浜市公害対策局 公害資料 **35**: 1-5.
- 福島 博・北原裕美子・小林艶子. 1972. 名寄川 (北海道) のケイ藻植生. 横浜市立大学論叢 自然科学 **23**: 1-34.
- 福島 博・小林艶子・右田嵯紀子. 1972. 東京湾のプランクトン. 昭和46年度東京湾総合調査報告書. pp. 160-211. 一都三県公害防止協議会.
- 福島 博・右田嵯紀子. 1972. 生物学的水質判定ノート. 産業公害 **8**: 11-20.
- 福島 博・右田嵯紀子. 1972. 生物学的水質判定ノート (続). 産業公害 **9**: 5-14.
- 福島 博・中村澄夫. 1972. 日本の湖沼のケイ藻植生. 横浜市立大学論叢 自然科学 **23**: 1-24.
- 井手嘉雄・森田良美・福島 博. 1972. 非汚濁河川の重金属量とその生物相の研究 (1). 産業公害 **8**: 661-668.
- 井手嘉雄・森田良美・福島 博. 1972. 非汚濁河川の重金属量とその生物相の研究 (2). 産業公害 **8**: 747-759.
- 小林艶子・萩原邦子. 1972. 北極圏アラスカのケイ藻植生 (II). 横浜市立大学論叢 自然科学 **22**: 79-99.
- 小林艶子・福島 博. 1972. 白馬池 (八ヶ岳) のケイ藻. 横浜市立大学論叢 自然科学 **24**: 121-135, pl. 1-9.
- 小林艶子・福島 博・前田秋一・長井孝夫・高根英樹・館野周之. 1972. 相模川 (神奈川県) でえたケイ藻の変異性. 横浜市立大学論叢 自然科学 **23**: 101-143.
- 福島 博. 1973. 酒匂川の藻類植生と水質汚濁 (2) (1971年, 1972年の状態). 酒匂川 **8**: 1-46.
- 福島 博. 1973. 泉と河川の藻類. 横浜市立大学論叢 自然科学 **24**: 99-120.
- 福島 博・平本俊明. 1973. 横浜中部下水処理場最終沈殿池よりえたケイ藻. 陸水学雑誌 **34**: 143-156.
- 福島 博・木村 努・小林艶子. 1973. 木曾川のケイ藻. 横浜市立大学紀要 生物学編 **3**: 1-155.
- 福島 博・小林艶子・金子喜美江・福島 悟・堀口 昂・中村正夫. 1973. 付着藻の分離指数 (diversity index) とけい藻の汚濁指数 (biotic index) について. 用水と廃水 **15**: 26-31.
- 福島 博・小林艶子・高根英樹. 1973. 酒匂川の支流, 河内川 (神奈川県) でえたケイ藻. 酒匂川 **8**: 47-72.
- 福島 博・綿貫知彦・小林艶子. 1973. 東オングル島より得たケイ藻 (予報). 南極資料 **46**: 125-132.
- 福島 博・吉武嵯紀子・小林艶子. 1973. 水質汚濁共同調査報告書 (東京湾総合調査). pp. 99-168. 一都三県鉱害防止協議会.
- 平本俊明・福島 博. 1973. 横浜中部下水処理場最終沈殿池の藻類植生. 日本水処理生物学会誌 **9** (1): 15-24.
- 井手嘉雄・森田良美・福島 博. 1973. 非汚濁河川の重金属量とその生物相の研究 (3). 産業公害 **9**: 121-132.
- 小林艶子・福島 博. 1973. 白駒池 (八ヶ岳) のケイ藻. 横浜市立大学論叢 自然科学 **24**: 121-135, pl. 1-9.
- 福島 博・福島 悟. 1974. 高瀬川水系の付着藻類. 高瀬川流域自然総合調査報告書 **S. 49**: 209-222.
- 福島 博・福島 悟・小林艶子. 1974. 付着藻の優占的な種とそれらのみられる水域のBOD値. 日本水処理生物学会誌 **10** (2): 21-25.
- 福島 博・小林艶子・福島 悟. 1974. 酒匂川の藻類植生と水質汚濁 (1973, 1974年). 酒匂川 **10**: 1-48.
- 福島 博・小林艶子・福島 悟. 1974. 付着藻の多様性指数 (Diversity Index) と汚濁指数 (Biotic Index). 用水と廃水 **16**: 47-60.
- 福島 博・綿貫知彦・小林艶子. 1974. 西オングル島大池より得たケイ藻. 南極資料 **50**: 35-39.
- 横山宜雄・福島 博. 1974. 八甲田 (青森県) 流水域の付着藻. 用水と廃水 **16**: 21-28.
- 福島 博・福島 悟. 1975. 藻類と水質. 多摩川の生物相と水質汚濁の現況. pp. 29-100. 建設省関東地方建設局京浜工事事務所, 横浜.
- 福島 博・福島 悟. 1975. 流下藻と水質. 多摩川の生物相と水質汚濁の現況. pp. 247-266. 建設省関東地方建設局京浜工事事務所, 横浜.
- 福島 博・小林艶子. 1975. 生物による水の汚濁の探りかた—とくにアラスカの場合—. 極地 **20**: 28-37.

- 福島 博・小林艶子・福島 悟. 1975. 酒匂川の藻類植生と水質汚濁 (1974 年度) 1970 年の状態. 酒匂川 **11**: 1-50.
- 福島 博・綿貫知彦・小林艶子. 1975. 東オングル島より得たケイ藻 (予報) 2. 南極資料 **53**: 82-88.
- 綿貫知彦・福島 博. 1975. 神奈川県「古芦ノ湖」層のケイ藻類. 陸水学会誌 **36**: 79-85.
- 福島 博・小林艶子・唐沢 栄・福島 悟. 1975. 養老川, 小櫃川, 夷隅川および都川の付着藻類による水質判定. 千葉県内主要河川の汚濁度の生物学的調査 **S. 50**: 57-109.
- 福島 博・横山宜雄. 1976. 宮城県泉川上流部の付着藻類による水質判定. 産業公害 **11**: 22-26.
- 福島 博・小林艶子・福島 悟. 1976. 酒匂川の藻類植生と水質汚濁 (1975 年度). 酒匂川 **12**: 62-100.
- 福島 博・小林艶子・大野正夫・福島 悟. 1976. 鏡川水系の藻類. 鏡川の生物と環境に関する総合調査—特に塚の原地区水の放出に伴う影響について. pp. 27-54, pl. 1-6. 高知県.
- 福島 博・小林艶子・堺 好雄・平本俊明・福島 悟. 1976. 付着藻とそれらのみられる水域の BOD と COD 値 (1). 日本水処理生物学会誌 **12** (1): 16-21.
- 綿貫知彦・堺好雄・福島 博・宮田 保. 1976. 仙石原 (箱根) 湿原のケイ藻殻分析. 仙石原湿原発掘調査報告. 箱根町文化財研究紀要 **6**: 22-31.
- 福島 博・小林艶子・保坂昭雄・藤本丑雄・西宮克彦. 1977. 水生動物. *In*: 山梨県荒川環境アセスメント学術調査委員会 (編) 荒川ダム建設に伴う環境アセスメント調査報告書. pp. 154-180. 山梨県.
- 福島 博・小林艶子・福島 悟. 1977. III-1 藻類相. 多摩川の生物相と水質汚濁の現況 (その 2). pp. 57-200. 建設省関東地方建設局京浜工事事務所, 横浜.
- 福島 博・小林艶子・福島 悟. 1977. VI-1 藻類相から見た自浄作用の推定. 多摩川の生物相と水質汚濁の現況 (その 2). pp. 359-362. 建設省関東地方建設局京浜工事事務所, 横浜.
- 福島 博・小林艶子・福島 悟. 1977. III-1 付着藻類と水質. 多摩川の生物相と水質汚濁の現況 (その 3). pp. 49-121. 建設省関東地方建設局京浜工事事務所, 横浜.
- 福島 博・小林艶子・福島 悟. 1977. V-1 流下藻類と水質. 多摩川の生物相と水質汚濁の現況 (その 3). pp. 205-277. 建設省関東地方建設局京浜工事事務所, 横浜.
- 福島 博・小林艶子・大野正夫・福島 悟. 1977. 四万十川の藻類. 四万十川水系の生物と環境に関する総合調査. pp. 81-119. 高知県.
- 唐沢 栄・福島 博. 1977. 東オングル島のケイ藻植生と水質環境. 南極資料 **59**: 46-53.
- 小林艶子. 1977. ダム湖のプランクトンについて. 横浜市立大学論叢 自然科学. **28**: 1-48.
- 福島 博・小林艶子・寺尾公子. 1978. 酒匂川の藻類植生と水質汚濁 (1978 年度). 酒匂川 **15**: 1-47.
- 福島 博・小林艶子. 1978. III-1 付着藻類相多摩川の生物相と水質汚濁の現況 (その 4). pp. 41-106. 建設省関東地方建設局京浜工事事務所, 横浜.
- 福島 博・小林艶子. 1978. V-1 流下藻類と水質多摩川の生物相と水質汚濁の現況 (その 4). pp. 197-290. 建設省関東地方建設局京浜工事事務所, 横浜.
- 綿貫知彦・福島 博. 1978. 南極・塩湖の生物. 極地 **14**: 30-33.
- 福島 博. 1979. 水中生物とくに河川付着藻の指標性. 環境科学 **B30**: 73-86.
- 福島 博・小林艶子. 1979. 酒匂川の藻類植生と水質汚濁 (1976 年度). 酒匂川 **14**: 1-58.
- 福島 博・小林艶子・西宮克彦. 1979. 藻類—特に大城川 (富士川支流) の藻類植生について. 身延町の現状とその展望. pp. 123-144.
- 福島 博・小林艶子. 1979. III-1 付着藻類相. 多摩川の生物相と水質汚濁の現況 (その 5). pp. 53-125. 建設省関東地方建設局京浜工事事務所, 横浜.
- 福島 博・小林艶子. 1979. V-1 流下藻類相. 多摩川の生物相と水質汚濁の現況 (その 5). pp. 217-297. 建設省関東地方建設局京浜工事事務所, 横浜.
- 福島 博・小林艶子. 1979. 付着藻類相. 日原川の生物相と水質汚濁の現況. pp. 25-53. 建設省関東地方建設局京浜工事事務所, 横浜.
- 福島 博・小林艶子. 1979. 流下藻類相. 日原川の生物相と水質汚濁の現況. pp. 79-99. 建設省関東地方建設局京浜工事事務所, 横浜.
- 福島 博・小林艶子. 1979. 藻類植生と水質. 鶴見川の生物相と水質汚濁の現況. pp. 27-60. 建設省関東地方建設局京浜工事事務所, 横浜.
- 福島 博・小林艶子. 1979. 流下藻類相. 鶴見川の生物相と水質汚濁の現況. pp. 93-117. 建設省関東地方建設局京浜工事事務所, 横浜.
- 印東弘玄・寺尾公子・福島 博. 1979. 相模川上流部の付着藻類植生. 東京女子体育大学紀要 **14**: 1-18.
- 小林艶子. 1979. 非耐汚濁度と強耐汚濁度について. 横浜市立大学論叢 自然科学 **30**: 174-182.
- 福島 博. 1980. 藻類 (金目川, 葛川, 中村川, 境川, 引地川, 神部川, 滑川, 早川). 神奈川県の水生生物 **2**: 61-68.
- 福島 博 (編). 1980. 淡水植物プランクトン. グリーンブックス **66**. 114 pp. ニュー・サイエンス社, 東京.
- 福島 博・小林艶子・寺尾公子. 1980. III-1 藻類と水質. 多摩川の生物相と水質汚濁の現況 (その 6). pp. 8-77. 建設省関東地方建設局京浜工事事務所, 横浜.
- 福島 博・小林艶子・寺尾公子. 1980. IV-2 流下藻類と水質. 多摩川の生物相と水質汚濁の現況 (その 6). pp. 161-204. 建設省関東地方建設局京浜工事事務所, 横浜.
- 福島 博・小林艶子・寺尾公子. 1980. 付着藻の優占種と多様性指数, とくに優占種により群集構造を比較する方法. 日本水処理生物学会誌 **16** (1-2): 30-32.
- 福島 博・小林艶子・寺尾公子. 1980. 付着藻類相・流下藻類相. 江戸川中川水生生物調査報告書. pp. 13-96.
- 福島 博・沢井真理子・篠田直美・寺尾公子. 1980. 羽状ケイ藻 *Navicula pupula* var. *pupula* f. *pupula* の分類学的検討. 日本水処理生物学会誌 **16** (1-2): 41-46.
- 福島 博・寺尾公子. 1980. 羽状ケイ藻 *Navicula viridula* v. *slesvicensis* の分類学的検討. 東京女子体育大学紀要 **15**: 178-196.
- 印東弘玄・寺尾公子・福島 博. 1980. 羽状ケイ藻 *Navicula viridula* v. *viridula* f. *viridula* の分類学的検討. 東京女子体育大学紀要 **15**: 107-128.
- 小林艶子. 1980. 酒匂川の藻類植生と水質汚濁 (1978 年度). 酒匂川 **15**: 1-47.
- 小林艶子. 1980. 緑虫類, 炎藻類, 黄色ペン毛藻類. *In*: 福島 博 (編) 淡水植物プランクトン. pp. 38-44. ニューサイエンス社, 東京.
- 寺尾公子・印東弘玄・福島 博. 1980. 羽状ケイ藻, 特に *Navicula viridula* の横条線数の計測方法について (予報). 日本水処理生物学会誌 **16** (1-2): 33-35.
- 寺尾公子・印東弘玄・福島 博. 1980. 羽状ケイ藻 *Navicula schroeteri* Meister の分類学的検討 (1). 日本水処理生物学会

- 誌 16 (1-2): 36-40.
- 福島 博. 1981. 井出嘉雄先生を悼む. 日本水処理生物学会誌 17 (2): 26-27.
- 福島 博. 1981. 水洗式便所使用の実態. 日本水処理生物学会誌 17 (2): 28-29.
- 福島 博. 1981. 藻類 (早川, 中村川, 滑川, 神部川). 神奈川県の水生生物 3: 105-109.
- 福島 博・小林艶子・寺尾公子. 1981. 酒匂川の藻類植生と水質汚濁 (1980年度). 酒匂川 16: 1-46.
- 福島 博・小林艶子・吉武佐紀子・寺尾公子. 1981. 附着藻と底生動物による水質判定結果の比較. 日本水処理生物学会誌 17 (1): 1-5.
- 福島 博・須貝敏英・寺尾公子・和田雅人. 1981. 羽状珪藻 *Navicula cryptocephala* Kütz. var. *intermedia* Grunow の分類学的検討. 東京女子体育大学紀要 16: 186-195.
- 福島 博・寺尾公子・志村直美・島田陽子. 1981. 羽状ケイ藻 *Epithemia sorex* Kütz. の分類学的研究. 日本水処理生物学会誌 17 (1): 36-43.
- 福島 博・寺尾公子・志村直美・島田陽子. 1981. 羽状ケイ藻 *Rhoicosphenia curvata* (Kütz.) Grun. の分類学的研究. 日本水処理生物学会誌 17 (1): 44-50.
- 浜村哲夫・中田 勝・福島 博. 1981. 金目川の附着藻類. 神奈川県の水生生物 3: 1-21.
- 浜村哲夫・中田 勝・福島 博. 1981. 堺川の附着藻類. 神奈川県の水生生物 3: 55-64.
- 浜村哲夫・中田 勝・福島 博. 1981. 引地川の附着藻類. 神奈川県の水生生物 3: 75-82.
- 浜村哲夫・中田 勝・福島 博. 1981. 葛川の附着藻類. 神奈川県の水生生物 3: 93-100.
- 小林艶子. 1981. 桑名市汽水域のケイ藻. 横浜市立大学論叢 自然科学 32: 73-88.
- 福島 博. 1982. 藻類 (千歳川, 新崎川, 山王川, 森戸川, 田越川, 森戸川, 下山川, 平作川). 神奈川県の水生生物 4: 85-95.
- 福島 博・小林艶子. 1982. 相模川 (神奈川県) の附着藻類植生. 東京女子体育大学紀要 17: 177-182.
- 福島 博・小林艶子・寺尾公子. 1982. III. 五ヶ瀬川水系の藻類植生. 五ヶ瀬川水系魚族実態調査報告書 1981年度. pp. 173-253. 建設省九州地方建設局延岡工事事務所, 延岡.
- 小林艶子. 1982. 五ヶ瀬川の藻類植生. 宮崎大学農学部五ヶ瀬川魚族実態調査報告書. pp. 173-190. 宮崎大学農学部, 宮崎.
- 小林艶子. 1982. 生物学的水質判定について. 横浜市立大学論叢 自然科学 33: 23-57.
- 小林艶子. 1982. 附着藻による河川水質の評価について. 「環境科学」研究報告集 B121-R-12-10: 22-30.
- 福島 博. 1983. 一河川の附着藻類の周年変化. 東京女子体育大学紀要 18: 104-112.
- 福島 博・小林艶子・寺尾公子. 1983. 羽状ケイ藻 *Achnanthes exigua* Grun. とくに var. *heterovalva* Krasske の分類学的研究 (1)~(3). 日本水処理生物学会誌 19 (2): 19-24, 25-30, 31-36.
- 福島 博・小林艶子・寺尾公子. 1983. 森戸川 (葉山町) の附着藻類. 神奈川県の水生生物 5: 95-108.
- 福島 博・寺尾公子・小林艶子. 1983. 下山川の附着藻類. 神奈川県の水生生物 5: 115-128.
- 福島 博・寺尾公子・小林艶子. 1983. 田越川の附着藻類. 神奈川県の水生生物 5: 75-89.
- 寺尾公子・福島 博・小林艶子. 1983. 羽状ケイ藻 *Navicula notha* Wallace の分類学的検討 (1), (2). 日本水処理生物学会誌 19 (1): 24-28, 29-34.
- 福島 博. 1984. 水界生態調査. 水界生態調査 pp. 1-30.
- 福島 博. 1984. 多摩川の流下藻 (予報 1). 東京女子体育大学紀要 19: 142-158.
- 福島 博・小林艶子・寺尾公子. 1984. 羽状ケイ藻 *Navicula confervacea* (Kütz.) Grunow の分類学的検討 (1). 日本水処理生物学会誌 20 (2): 20-33.
- 小林艶子. 1984. 関東地方諸河川の水質汚濁を示す諸指数. 横浜市立大学論叢 自然科学 35: 185-195.
- 小林艶子. 1984. 多摩川流下藻の日周変化 (1). 横浜市立大学論叢 自然科学 35: 165-183.
- 小林艶子・福島 博・大塚晴江・寺尾公子. 1984. 羽状ケイ藻 *Achnanthes saxonica* Krasske の分類学的検討 (1)~(3). 日本水処理生物学会誌 20 (1): 18-23, 24-27, 28-32.
- 福島 博. 1985. 環境と生物—生物を調査して何がわかるか—. 東京女子体育大学紀要 20: 267-275.
- 福島 博・小林艶子・寺尾公子・吉武佐紀子. 1985. 羽状ケイ藻 *Navicula radiosa* Kütz. var. *tenella* (Bréb. et Kütz.) Van Heurck の分類学的検討 (1)~(3). 日本水処理生物学会誌 21 (1): 1-6, 7-12, 13-19.
- 福島 博・小林艶子・大塚晴江・寺尾公子. 1985. 羽状ケイ藻 *Cymbella microcephala* (Kütz.) Grunow の分類学的検討 (1) (2). 日本水処理生物学会誌 21 (2): 25-29, 30-37.
- 福島 博・寺尾公子・小林艶子. 1985. *Navicula bryophila* Boye-Petersen の形態変異. Diatom 1: 32-39.
- 寺尾公子・福島 博. 1985. 多摩川のケイ藻の生態と分類 特に主要種の分類学的研究. 多摩川環境調査助成集 7 (6): 1-112.
- 福島 博. 1986. 羽状ケイ藻 *Diatoma vulgare* Bory var. *grade* (W. Smith) Grunow について. 東京女子体育大学紀要 21: 225-239.
- 福島 博・小林艶子・寺尾公子. 1986. 河川附着藻のザプロビ指数と水温との関係. Diatom 2: 163-168.
- Fukushima, H., Ko-Bayashi, T., Terao, K. & Yoshitake, S. 1986. Morphological variability of *Navicula radiosa* Kütz. f. *nipponica* Skv. and var. *tenella* (Bréb.) Grun. (*Navicula cryptotenella* Lange-Bertalot). Diatom 2: 75-82.
- 小林艶子・秋山雅志. 1986. 多摩川流下藻の日周変化 (2). 横浜市立大学論叢 自然科学 37: 85-102.
- 小林艶子・勝山志乃・福島 博. 1986. 羽状ケイ藻 *Navicula pupula* Kütz. の分類学的検討 (1) (2). 日本水処理生物学会誌 22 (2): 17-22, 23-28.
- 小林艶子・福島 博・大塚晴江. 1986. 羽状ケイ藻 *Cymbella tumida* (Bréb.) Van Heurck の分類学的検討 (1)~(4). 日本水処理生物学会誌 22 (1): 13-18, 19-24, 25-30, 31-37.
- 渡辺仁治・根来健一郎・福島 博・小林 弘・浅井一視・後藤敏一・南雲 保・小林艶子・真山茂樹・伯耆晶子. 1986. 珪藻群集を生物指標とする陸水汚濁の定量的環境評価法の研究. 研究報告書 (9). pp. 139-167. 日産科学振興財団, 東京.
- 福島 博・小林艶子・大塚晴江. 1987. 羽状ケイ藻 *Cymbella affinis* Kütz. の分類学的検討 (1) (2). 日本水処理生物学会誌 23 (1): 27-33, 34-41.
- Fukushima, H., Ko-Bayashi, T., Ohtsuka, H., Yoshitake, S., & Terao, K. 1987. Morphological variability of *Cymbella microcephala* Grunow. Diatom 3: 89-98.
- 福島 博・寺尾公子・小林艶子・大塚晴江. 1987. 生物学的水質判定とくに附着藻による場合. In: 日本河川協会 (編) 1987年日本河川水質年鑑. pp. 947-959. 山海堂, 東京.
- 猪口眞美・福島 博. 1987. 羽状ケイ藻 *Cymbella ventricosa*

- Kützing の分類学的検討 (1) (2). 日本水処理生物学会誌 **23** (2): 24-29, 30-34.
- 小林艶子. 1987. 羽状ケイ藻 *Achnanthes lanceolata* と *A. rostrata* について. 横浜市立大学論叢 自然科学 **36**: 213-231.
- 小林艶子・福島 博・大塚晴江. 1987. 羽状ケイ藻 *Gomphonema augur* Ehr. の分類学的検討 (1) (2). 日本水処理生物学会誌 **23** (2): 39-42, 43-49.
- 福島 博・石井明子・小林艶子・大塚晴江. 1988. 羽状ケイ藻 *Fragilaria pinnata* Ehr. の分類学的検討 (1)~(3). 日本水処理生物学会誌 **24** (2): 30-36, 37-43, 44-48.
- Fukushima, H., Ko-Bayashi, T., Ohtsuka, H. & Yoshitake, S. 1988. Morphological Variability of *Cymbella microcephala* (Kütz.) Grunow in the Pyrenees. *Diatom* **4**: 1-9.
- Fukushima, H., Ko-Bayashi, T., Terao, K. & Yoshitake, S. 1988. Morphological variability of *Diatoma vulgare* Bory var. *grande*. In: Round, F.E. (ed.) Proceedings of the Ninth International Diatom Symposium. pp. 377-389. Biopress, Bristol.
- Fukushima, H. & Xavier, M.B. 1988. Attached diatom from the Negro River, Amazonas, Brazil. *Diatom* **4**: 11-16.
- 福島 博・Xavier, M.B.・小林艶子・寺尾公子・大塚晴江. 1988. リオデジャネイロ (ブラジル) で得たケイ藻. 日本水処理生物学会誌 **24** (1): 163-173.
- 小林艶子・福島 博・石井明子・勝山志乃. 1988. 相模川 (神奈川県) の藻類植生. 日本水処理生物学会誌 **24** (1): 135-158.
- 吉武佐紀子・福島 博. 1988. *Asellus hilgendorffii* の消化管内容物中の藻類と付着藻の関係. 日本水処理生物学会誌 **24** (1): 159-162.
- 福島 博・小林艶子・大塚晴江. 1989. 羽状ケイ藻 *Cymbella caepistosa* (Kütz.) Brun の形態変異 (1)~(3). 日本水処理生物学会誌 **25** (1): 23-30, 31-38, 39-44.
- 福島 博・小林艶子・大塚晴江. 1989. 羽状ケイ藻 *Cymbella cistula* (Ehr.) Kirchner の形態変異 (1)~(4). 日本水処理生物学会誌 **25** (2): 31-38, 39-46, 47-54, 55-58.
- 小林艶子. 1989. *Navicula pusilla* W. Smith について. 横浜市立大学紀要 自然科学編 **4**: 19-28.
- 鈴木康人・小林艶子・福島 博・大塚晴江. 1989. 多摩川日野橋における基物と藻類植生 1 (1), (2). 日本水処理生物学会誌 **25** (1): 7-21.
- 鈴木康人・小林艶子・福島 博・大塚晴江. 1989. 多摩川日野橋における基物と藻類植生 2 (1), (2). 日本水処理生物学会誌 **25** (2): 20-30.
- 福島 博・小林艶子・栗原美香・大塚晴江. 1990. 羽状ケイ藻 *Navicula yuraensis* Negoro et Gotoh の形態変異 (1). 日本水処理生物学会誌 **26**: 68-70.
- 福島 博・小林艶子・大沢啓志・大塚晴江. 1990. 花水川 (神奈川県) の付着藻類植生 (1), (2). 日本水処理生物学会誌 **26** (1): 31-38, 39-43.
- Fukushima, H., Ko-Bayashi, T., Ohtsuka, H. & Yoshitake, S. 1990. Morphological variability of *Diatoma Ceratoneis arcus* var. *recta*. In: Simola, H. (ed.) Proceedings of the Tenth International Diatom Symposium. pp. 139-147. Koeltz Scientific Books, Koenigstein.
- 福島 博・小林艶子・大塚晴江. 1990. 四万十川の植物一付着藻類一. 四万十川〈しぜん・いきもの〉 pp. 103-130.
- 福島 博・小林艶子・鈴木康人・大塚晴江. 1990. 羽状ケイ藻 *Cymbella lata* Grun. の分類学的検討 (1)~(3). 日本水処理生物学会誌 **26** (1): 44-51, 52-59, 60-65.
- 井上珠美・佐藤嘉彦・小林艶子. 1990. パイカウツギ属の一栽培品種の胚嚢形成. 横浜市立大学論叢 自然科学 **39**: 129-137.
- 福島 博・小林艶子・栗原美香・藤田晴江. 1991. 羽状ケイ藻 *Synedra rumpens* var. *familiaris* (Kütz.) Grun. の形態変異 (1) (2). 日本水処理生物学会誌 **27** (2): 35-37, 38-45.
- 福島 博・小林艶子・栗原美香・大塚晴江. 1991. 羽状ケイ藻 *Synedra rumpens* Kütz. var. *fragilarioides* Grun. の形態変異. 日本水処理生物学会誌 **27** (1): 139-162.
- Fukushima, H., Ko-Bayashi, T. & Yoshitake, S. 1991. Dominant species of epilithic algae in Japanese running waters. Internationale Vereinigung für Theoretische und Angewandte Limnologie: Verhandlungen **24**: 2048-2049.
- 小林艶子. 1991. *Fragilaria elliptica* Schumann と *Fragilaria* の新しい分類体系について. 横浜市大紀要 自然科学編 **5**: 15-41.
- Ohtsuka, H., Fukushima, H., Ko-Bayashi, T. & Yoshitake, S. 1991. Morphological variability of *Cymbella microcephala* (Pennate diatom). Internationale Vereinigung für Theoretische und Angewandte Limnologie: Verhandlungen **24**: 2640-2643.
- Fukushima, H., Ko-Bayashi, T., Fujita, H. & Yoshitake, S. 1992. Morphological variability of *Navicula perminuta* Grunow. Japanese Journal of Water Treatment Biology **28** (2): 5-13.
- 福島 博・小林艶子・栗原美香・藤田晴江. 1992. 羽状ケイ藻 *Fragilaria vaucheriae* (Kuetz.) Boye-Petersen の形態変異 (1)~(3). 日本水処理生物学会誌 **28** (1): 33-39, 40-45, 46-50.
- 福島 博・小林艶子・藤田晴江・大野正夫. 1992. *Fragilaria vaucheriae* (Kützing) Boye-Petersen の形態変異 (續報). 日本水処理生物学会誌 **28** (2): 15-34.
- 福島 博・小林艶子・鈴木康人・大野正夫. 1992. *Cymbella japonica* Reichelt の形態変異. 日本水処理生物学会誌 **28** (2): 35-62.
- Meguro, H., Fukushima, H. & Matsuda, T. 1992. Distribution of the two types of ice diatom communities in the Antarctic. Journal of Marine Systems **3**: 163-168.
- Yoshitake, S. & Fukushima, H. 1992. Algal floras in the Seewinkel Pans and Neusiedlersee (Austria). Japanese Journal of Water Treatment Biology **28** (2): 63-67.
- Yoshitake, S. & Fukushima, H. 1993. Comparison of diatom composition in different types of acidic lakes in Shiga Plateau, Japan. Internationale Vereinigung für Theoretische und Angewandte Limnologie: Verhandlungen **25**: 817-821.
- Fukushima, H., Ko-Bayashi, T., Ohtsuka, H. & Yoshitake, S. 1994. Morphological variability of *Navicula recens* (Lange-Bertalot) Lange-Bertalot. In: Kociolek, P. (ed.) Proceedings of the 11th International Diatom Symposium. pp. 143-154. California Academy of Sciences, California.
- Yoshitake, S., Iwata, H. & Fukushima, H. 1994. Estimation of water quality by diatom assemblages in the small streams and pond, Kamakura area, south-central Japan. 湘南短期大学紀要 **5**: 219-225.
- Fukushima, H., Ko-Bayashi, T. & Yoshitake, S. 1995. Morphological variability of *Fragilaria vaucheriae* (Kützing) Boye-Petersen var. *perminuta* (Grunow) Kobayasi on King George Island (Antarctica). In: Marino, D. & Montresor, M. (eds) Proceedings of the Thirteenth International Diatom Symposium. pp. 371-383. Biopress, Bristol.
- Yoshitake, S. & Fukushima, H. 1995. Distribution of attached diatoms in inorganic acid lakes in Japan. In: Marino, D. & Montresor, M. (eds) Proceedings of the Thirteenth International Diatom Symposium. pp. 321-333. Biopress, Bristol.

- 福島 博. 1997. 南極の池に100年前と同じプランクトンが生きていた. 極地 **64**: 1-5.
- Fukushima, S. & Fukushima, H. 1997. Effects of reduction of sewage effluent on periphytic diatom assemblage in a lotic system. *Diatom* **13**: 93-104.
- 福島 博・小林艶子・吉武佐紀子. 1997. 霧島高原の *Gomphonema christensenii* R.L.Lowe & Kociolek の形態変異. *Diatom* **13**: 39-48.
- 伊藤茂夫・福島 博・小林艶子・吉武佐紀子. 1997. *Fragilaria capucina* var. *gracilis* (Oestrup) Hustedt sensu Krammer & Lange-Bertalot の形態変異. *Diatom* **13**: 49-61.
- 福島 博. 1998. 赤雪が北西航路開拓をおくらせた. 極地 **66**: 1-6.
- 福島 博・保坂昭雄・小林艶子・吉武佐紀子・城 克彦. 1998. 南極半島ネコ港とクーパービル島の珪藻植生. *Diatom* **14**: 63-67.
- Fukushima, H., Ko-Bayashi, T. & Yoshitake, S. 1998. Morphological variability of the pennate diatom, *Pinnularia krookii* (Grunow) Cleve, in the South Shetland Islands (Antarctica). *Verh. Internationale Vereinigung für Theoretische und Angewandte Limnologie: Verhandlungen* **26**: 1689-1692.
- 吉武佐紀子・福島 博. 1998. イエローストーン国立公園 (U.S.A.) の各種水域における珪藻植生. 湘南短期大学紀要 **9**: 67-72.
- 福島 博. 1999. スピッツベルゲン紀行. 極地 **68**: 1-7.
- 福島 博・福田和弘・小林艶子・吉武佐紀子. 1999. Fair 河 (North Carolina USA) の *Navicula tenelloides* Hustedt の形態変異. *Diatom* **15**: 79-84.
- Fukushima, H., Ko-Bayashi, T. & Yoshitake S. 1999. Morphological variability of *Cymbella lacustris* (Agardh) Cleve in a sample from the Neusiedler See (Austria). In: Mayama, S., Idei, M. & Koizumi, I. (eds) *Proceedings of the Fourteenth International Diatom Symposium*. pp. 75-84. Koeltz Scientific Books, Koenigstein.
- 福島 博・吉武佐紀子・小林艶子. 1999. 羽状珪藻 *Gomphonema tetrastigmatum* Horikawa et Okuno の増大胞子形成. 湘南短期大学紀要 **10**: 69-79.
- 福島 博. 2000. 日本珪藻学会 20 年の歩み. *Diatom* **16**: 1-2.
- 福島 博. 2000. ピーターマン島 (南極) の赤雪と緑雪. 極地 **70**: 1-6.
- 福嶋 悟・奥山美峰・青木節男・福島 博. 2000. 他水系の水が流入する都市河川における水質回復に伴う珪藻群集の長期的変化. *Diatom* **16**: 27-36.
- 福島 博. 2001. 略歴. *Diatom* **17**: 1-2.
- 福島 博. 2001. 日本珪藻学会初代会長根来健一郎先生のご逝去を悼む. *Diatom* **17**: 149-159.
- 福島 博. 2001. フォークランドの生物寸描—シベリアの珪藻をフォークランドで採集—. 極地 **72**: 1-7.
- Fukushima, H., Ko-Bayashi, T. & Yoshitake, S. 2001. New diatom taxa from New Island (Falkland Islands). In: Economou-Amilli, A. (ed.) *16th International Diatom Symposium*, 25 Aug.-1 Sept. 2000, Athens & Aegean Islands Proceedings 2001. pp. 107-113. University of Athens, Athens.
- Fukushima, H., Yoshitake, S. & Ko-Bayashi, T. 2001. *Pinnularia paralange-bertalotii* Fukush., Yoshit. & Ts.Kobay. nov. spec. new diatom taxon from acid water. *Diatom* **17**: 37-46.
- 篠原みどり・福島 博・小林艶子・吉武佐紀子. 2001. 峰温泉と片瀬温泉 (静岡県) の珪藻植生. *Diatom* **17**: 135-140.
- 福島 博・小林艶子・吉武佐紀子. 2002. 温泉産新種珪藻, *Navicula tanakae* Fukush., Ts.Kobay. & Yoshit. nov. sp. について. *Diatom* **18**: 13-21.
- 福島 博・吉武佐紀子・小林艶子. 2002. 日本の強酸性水域産, *Pinnularia* の新珪藻 3 種. *Diatom* **18**: 1-12.
- 篠原みどり・福島 博・小林艶子・吉武佐紀子. 2002. 伊東温泉 (静岡県) と湯河原温泉 (神奈川県) の珪藻植生. *Diatom* **18**: 81-87.
- 吉武佐紀子・福島 博. 2003. 下賀茂温泉の藻類, 特に珪藻について. 湘南短期大学紀要 **14**: 147-159.
- Fukushima, H., Yoshitake, S. & Ko-Bayashi, T. 2004. Morphological variability of *Pinnularia osoresanesis* (Negoro) Fukush., Yoshit. & Ts.Kobay. from Osorezan, northern Japan. In: Poulin, M. (ed.) *Proceedings of the Seventeenth International Diatom Symposium*. pp. 93-102. Biopress, Bristol.
- 吉武佐紀子・福島 博. 2007. 付着藻類から見た丹沢. 丹沢大山総合調査団 (編) 丹沢大山総合調査学術報告書. pp. 344-352. 平岡環境科学研究所, 相模原.
- Yoshitake, S., Fukushima, H. & Lepskaya, E.V. 2008. The diatom flora of some hot springs in Kamchatka, Russia. In: Likhoshway, Y. (ed.) *Proceedings of the Nineteenth International Diatom Symposium*. pp. 151-168. Biopress, Bristol.
- Yoshitake, S., Fukushima, H., Kimura, T., Lepskaya, E.V. & Ko-Bayashi, T. 2009. Variability of the pennate diatom *Gomphonema ventricosum* Gregory from far eastern lakes. 20th International Diatom Symposium 2008. *Acta Botanica Croatica* **68**: 421-430.
- 福島 博・木村 努・小林艶子・福嶋 悟・吉武佐紀子. 2012. カナダ北極圏沿岸の陸水域で得た珪藻 *Navicula* sensu lato の分類学的検討. 南極資料 **56**: 1-56.
- 福島 博・木村 努・小林艶子・吉武佐紀子・Lepskaya, E.V. 2012. 周北性珪藻 *Navicula streckeriae* Lange-Bert. & Witk. 特に点紋について. 南極資料 **56**: 259-283.
- 福島 博・小林艶子・木村 努. 2012. 環境指標藻としての珪藻. 用水と廃水 **54**: 422-429.
- 福島 博・木村 努・小林艶子. 2013. 珪藻 *Navicula salinarum* Grunow の分類学的検討. 好塩性藻として. 日本水処理生物学会誌 **49**: 55-63.
- 福島 博・木村 努・小林艶子. 2013. 北極陸水域珪藻, 広義の *Navicula* 属数種の分類学的検討. 南極資料 **57**: 177-208.
- 福島 博・木村 努・保坂昭雄・小林艶子・吉武佐紀子. 2014. オークニー諸島 (英国) の流水域の藻類植生. 分類 **14**: 37-58.
- 福島 博・木村 努・小林艶子. 2014. β -中腐水性藻 *Navicula* の 1 新種 *Navicula watanabei* H.Fukush., Kimura & Ts.Kobay. nov. sp. 日本水処理生物学会誌 **50**: 33-41.
- 福島 博・木村 努・小林艶子. 2014. 貧腐水~ β -中腐水性種 *Navicula subalpina* var. *schweigeri* の新ランク・新組み合わせ. 日本水処理生物学会誌 **50**: 71-83.
- 木村 努・福島 博・小林艶子. 2015. 珪藻 *Placoneis flabellata* (E.Meister) Kimura, H.Fukush. et Ts.Kobay. comb. nov. の分類学的研究. 分類 **15**: 125-136.
- 福島 博・木村 努・小林艶子・井上 智. 2017. 環境指標種としての珪藻 *Navicula densilineolata* (Lange-Bert.) Lange-Bert. の分類学的検討. 日本水処理生物学会誌 **53**: 33-45.
- 福島 博・木村 努. 2018. 珪藻 *Navicula* 図鑑. 571 pp. 内田老鶴園, 東京.